

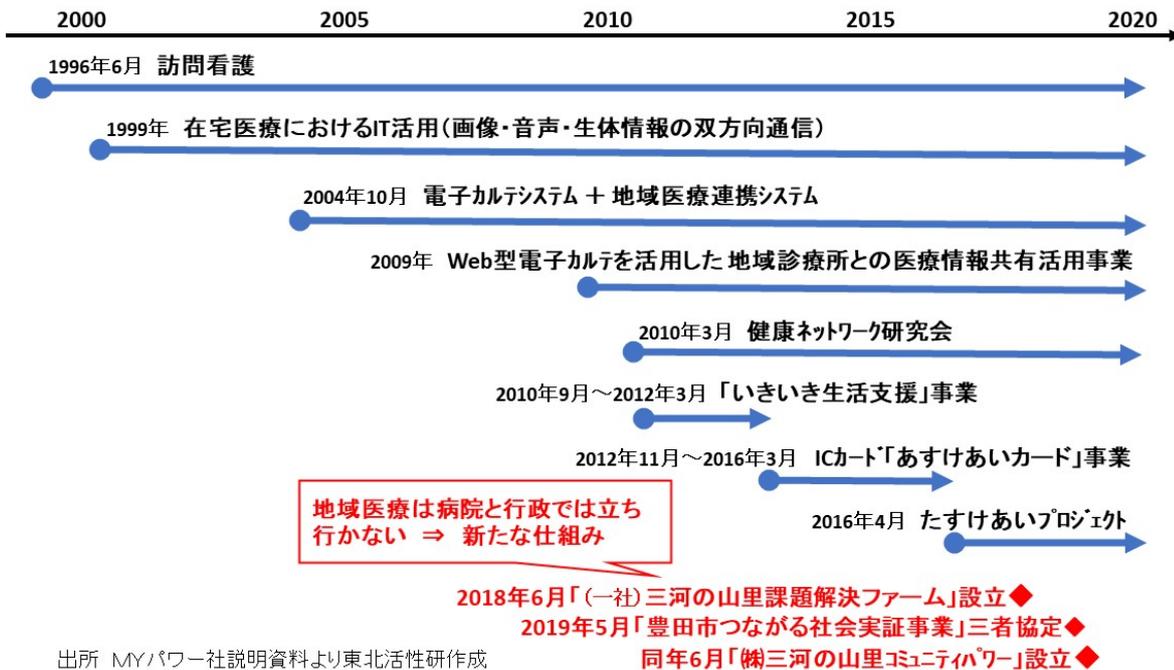
## 6 株式会社三河の山里コミュニティパワー（通称 MYパワー）

### 6.1 MYパワー設立に至る経緯

愛知県豊田市は人口 40 万人超の中核市であるが、広大な山間部は、人口減少、高齢化に関する課題を抱えている。

図表 6.1 は、同市山間部の足助（アスケ）地区にある足助病院の地域活動経緯である。1996 年の訪問看護から徐々に活動を広げ、2018 年に一般社団法人三河の山里課題解決ファーム（以下、ファーム）の設立に至った（概要、設立メンバーは図表 6.2）。

図表 6.1 足助病院の地域活動



図表 6.2 ファームの概要と設立メンバー

法人概要	設立メンバー
<p><b>法人名</b> 一般社団法人三河の山里課題解決ファーム</p> <p><b>役員</b> 代表理事: 早川 富博 専務理事: 萩原 喜之 理事: 石井 伸弘、関原 康成、平沼 辰雄、村田 元夫</p> <p><b>目的・事業</b> 当法人は、地域経済循環を目指した地域電力事業を基盤として、地域の課題解決を行い、新たな公共サービスの担い手となることを目的とし、そのために次の事業を行う。 (1) 地域の課題解決に関わる事業 (2) 電力及びエネルギーの生産、小売及び需給調整に関わる事業 (3) 地域福祉に関わる事業 (4) 地域交通に関わる事業 (5) 各前号に掲げる事業のほか、地域を構成する主体が地域の課題解決を担う仕組みの検討及び実施に関わる事業 (6) その他上記目的を達するために必要な事業</p> <p><b>所在地</b> 〒444-2351 愛知県豊田市岩神町仲田20番地 足助病院内(サテライト・サロン)</p> <p><b>設立時期</b> 2018年6月</p> <p><b>職員数</b> 1名</p>	<p><b>多彩な顔ぶれ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 山村地域の病院長 <b>【地元】</b> 23年間地域医療に従事、60代</li> <li>○ NPO 食える市民運動、環境、中間支援、60代</li> <li>○ 有機農家 エコリーグ、中間支援、農業、40代</li> <li>○ 企業コンサル ソーシャルビジネス、NPO、50代</li> <li>○ 行政コンサル <b>【地元】</b> 公共インフラ、ITシステム、NPO、50代</li> <li>○ PV 共同発電ファンド PV:太陽光 中小企業会長、60代</li> <li>○ 弁護士 2名 環境、再エネ発電、40代、30代</li> <li>○ 議員 環境、まちづくり、60代</li> <li>○ Iターン家族 <b>【地元】</b> 環境NPO、薪ストーブ屋、40代(事務局員)</li> </ul>

出所 MYパワー社提供情報より東北活性化研作成

## 6.2 ファームのコンセプト

図表 6.3 はファームおよびMYパワーのコンセプトをMYパワー提供情報より東北活性研が一般論を加味してまとめたものである。このコンセプトに沿って順調に推移すれば、MYパワーの活動は地域新電力の理想形の一つと言える。

彼らの目指すものは、ずばり「地域自治」である。東北活性研はこれを「行政に過度に頼らず自主的に地域課題に対処すること」と、ここでは定義しておく。

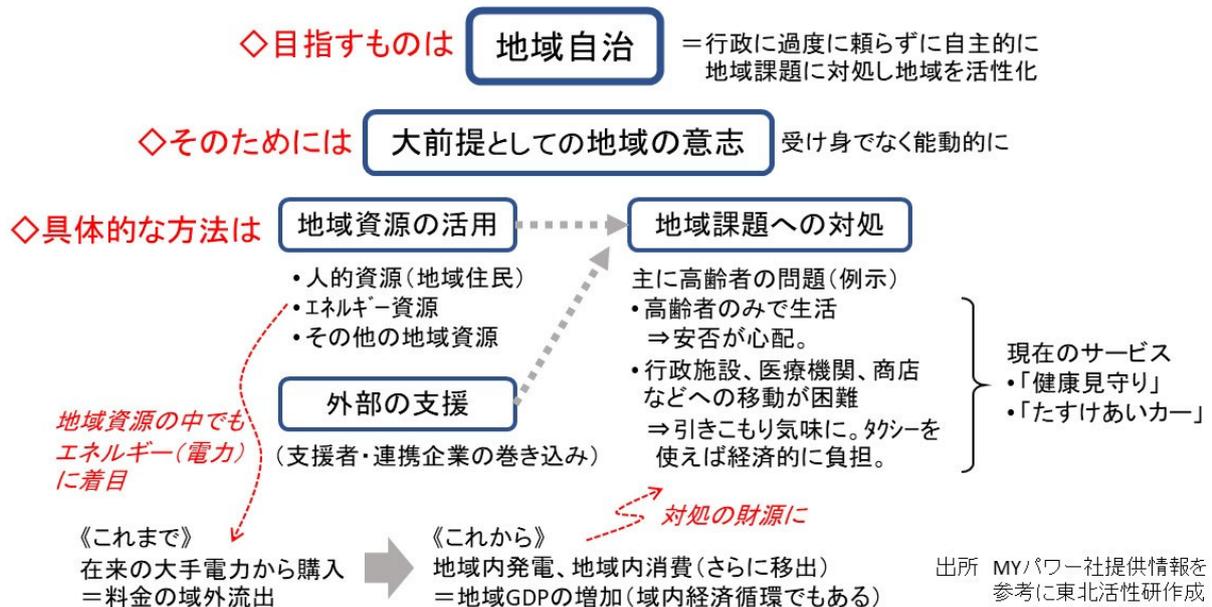
ファーム（そして、その実行組織であるMYパワー）は地域自治を目指して、地域住民を支援するが、その際の大前提は地域住民が自ら何とかしたいと思う意志（やる気）があることである（図表の 2 行目）。彼らの説明資料には、「サービスしない」という文言がある。これは受け身で支援を待っている人々に一方的にサービスを提供するのではなく、地域とともにサービスを創出するという意味である。

地域課題に対処する具体的な方法は（図表の 3 行目以下）、地域資源の活用と外部の支援である。ファームは地域資源のなかのエネルギー資源に注目した。すなわち、地域の再生可能エネルギーの開発、販売により、これまで域外に流出していたエネルギーコスト（電気料金）を域内に留めるとともに、その事業利益を地域課題対処の財源にするというものである。（注：ただし、当初は小売電気事業による利益のみ。詳細後述。）

また、地域内外の人的資源活用について、彼らは「巻き込みと連帯」という表現を使っており、積極的な働きかけと仕組み作りに努めている。連帯が形になったものが、後述の市と中部電力との連携協定である。

対処すべき地域課題は主に高齢者の問題である。現時点の具体的なサービスは、電気事業からの利益を財源とする高齢者世帯の見守りと移動支援である（詳細後述）。

図表 6.3 ファームのコンセプト



### 6.3 豊田市、中部電力との社会実証協定

ファームは前節のコンセプトを実現するために行政（豊田市）に提案し、2019年5月31日、図表6.4のような社会実証のための三者協定を締結した。（具体的な事業スキームは図表6.8）

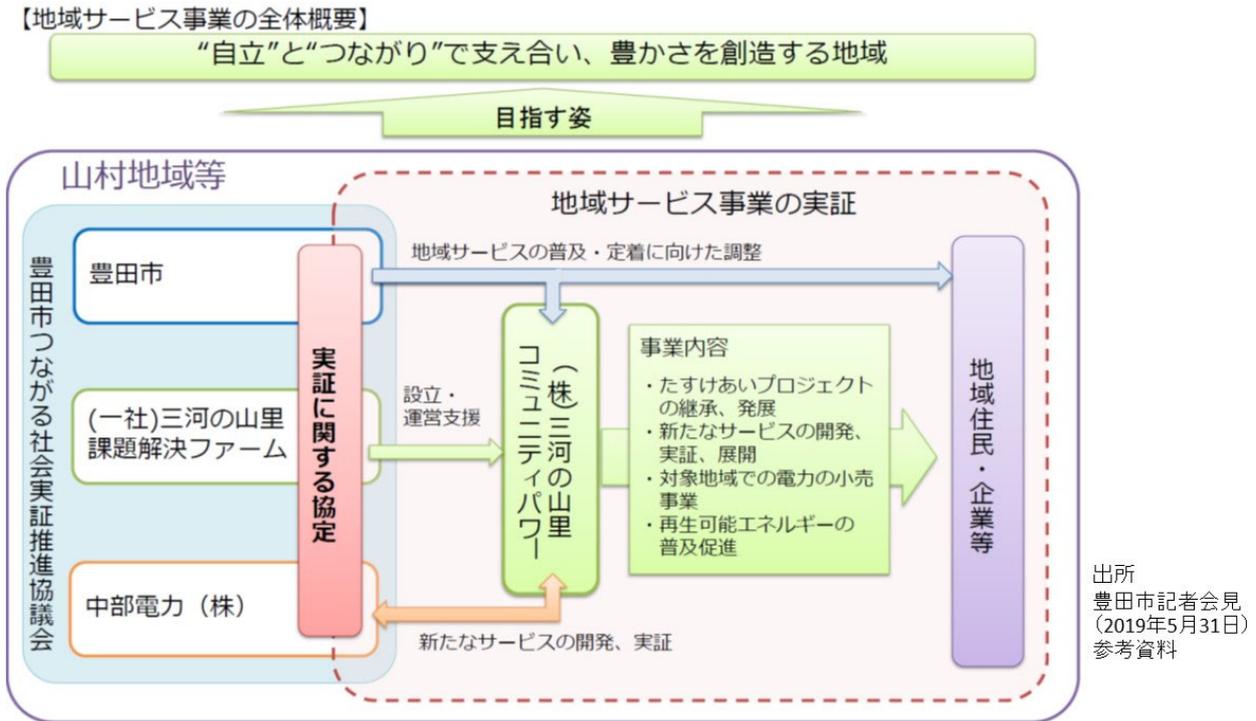
豊田市にとっては山間部の課題解決に地域

が自主的に取り組む、歓迎すべき試みである。

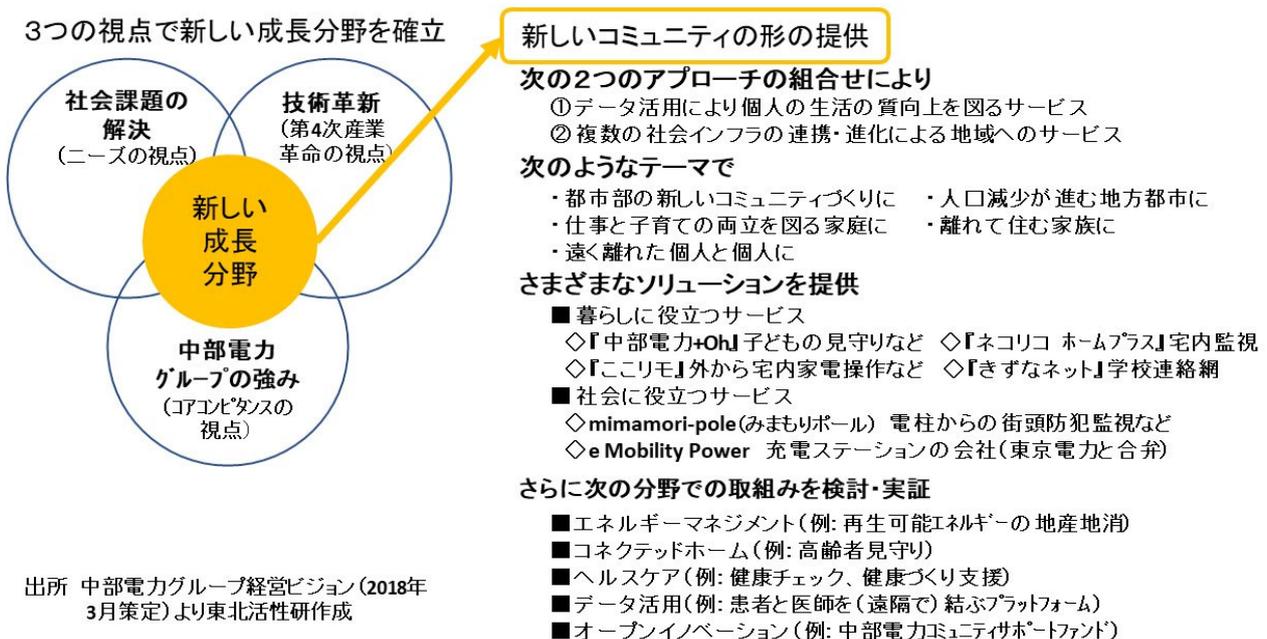
中部電力にとっては至近の経営ビジョンに掲げた「新しいコミュニティの形の提供」（図表6.5）の格好の実証フィールドとなる。

まさに三者 Win-Win-Win の関係と言える。

図表 6.4 「豊田市つながる社会実証事業」三者協定



図表 6.5 中部電力グループの新成長分野（2018年3月経営ビジョン）



### 6.4 MYパワーの概要と株主構成

ファームは設立の翌年、前節の三者協定の翌月に事業実施主体としてMYパワー（㈱三河の山里コミュニティパワー）を立ち上げた。（概要は図表 6.6。所在地、代表、専務はファームと同じ。）

社名にパワー（電力）が入っているが、電力関係のみならず、地域課題に対処するための事業を実施する会社である。

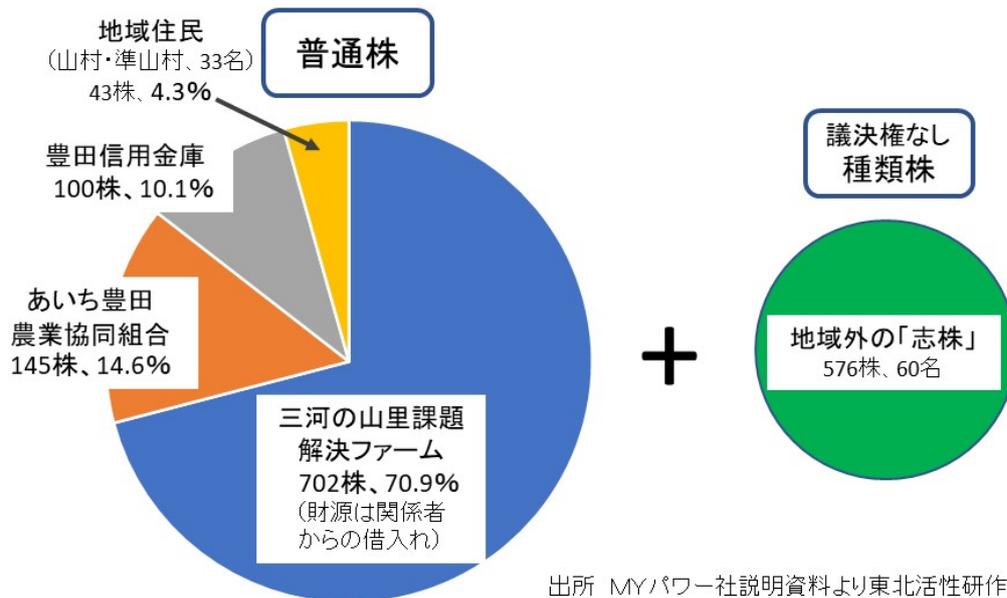
株主構成は図表 6.7 のとおりである。普通株はすべて地元であり、概論でのべた地域付加価値留保の点で理想的である。同社のユニークな点は地域外からの志のある株主が議決権なしの種類株を保有することである。

図表 6.6 MYパワーの会社概要

会社名	株式会社 三河の山里コミュニティパワー
役員	代表取締役：早川 富博 専務取締役：萩原 喜之 取締役：関原 康成
所在地	〒444-2351 愛知県豊田市岩神町仲田20番地 足助病院内（サテライト・サロン）
資本金	990万円（2019.10.1現在）
主要株主	一般社団法人三河の山里課題解決ファーム あいち豊田農業協同組合 豊田信用金庫
設立時期	2019年6月3日
社員数	8名
事業内容	○たすけあいプロジェクトの継承、発展 ○山村地域等の課題解決のための新たなサービスの開発、実証、展開 ○対象地域での電力の小売事業・再生可能エネルギーの普及促進

出所 同社HP (<https://my-power.jp/>) 2020年12月1日参照より  
東北活性化研作成

図表 6.7 MYパワーの株主構成



出所 MYパワー社説明資料より東北活性化研作成

### 6.5 事業の全体構造

図表 6.8 はMYパワーの現在の主要関係図（事業スキーム）である。

同社の新電力事業（小売電気事業）は、図表中段の中部電力グループから電力を調達し、豊田市の山間部の市施設に小売りするというシンプルなものである。豊田市からの電気料金収入は年間約3億円で、中部電力の料金と同水準とのことである。事業開始間もない同社は、現在、多くの新電力業務（電力調達、需給管理など）を中部電力グループに委託しているが、概論で触れた地域付加価値の留保の観点から今後何らかの内製化が検討されるであろう。また、再エネ発電についても着手しているとのことである。

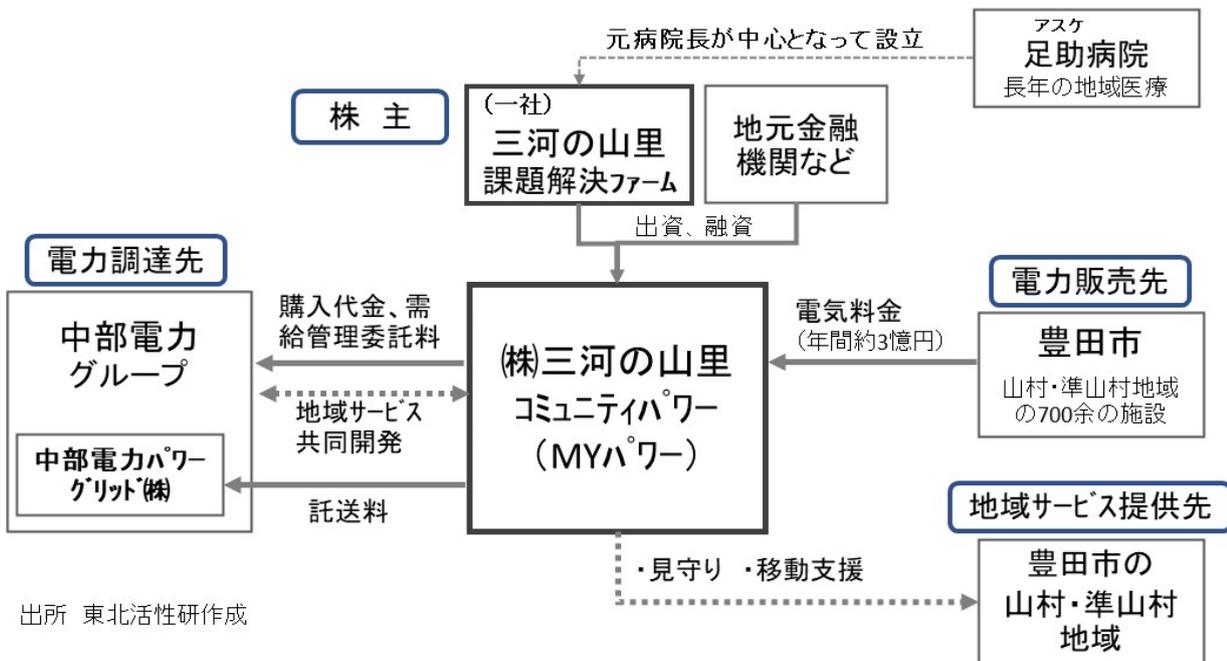
（同社の電気事業全体の将来像は後述）

中部電力は、豊田市からの電気料金収入約3億円を失うが、業務受託収入を得るほか、前述

したように新しい成長分野としての「新しいコミュニティの形の提供」ビジネスの実証というメリットがある。

MYパワーの地域サービス（図表右下）は現在、高齢者の見守りと移動支援であるが（詳細、次節）、足助病院（図表右上）の地域活動（高齢者向けイベントなど）と連携している。

図表 6.8 主要関係図



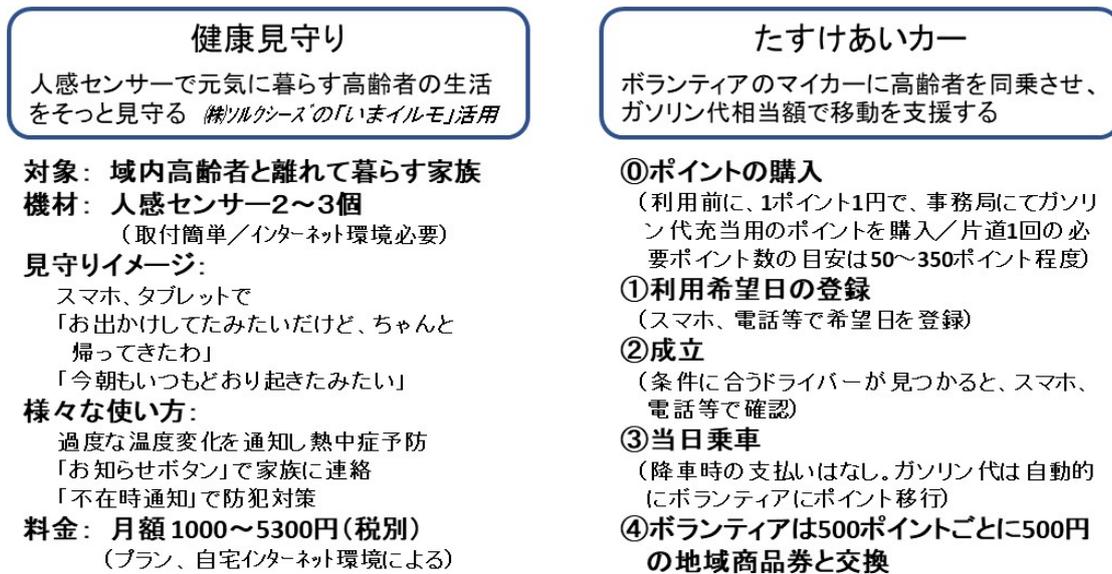
出所 東北活性化研作成

### 6.6 「たすけあいプロジェクト」の内容

たすけあいプロジェクトは現在、図表 6.9 の 2 つの事業から成る。健康見守りは既存の民間サービスをそのまま使っている。オリジナルのサービスを生成するより現実的と言える。たす

けあいカーは地域住民ボランティアを募るオリジナルサービスである。報酬の代わりにボランティアポイントを付与し、地域商品券と交換するシステムがユニークと言える。

図表 6.9 「たすけあいプロジェクト」



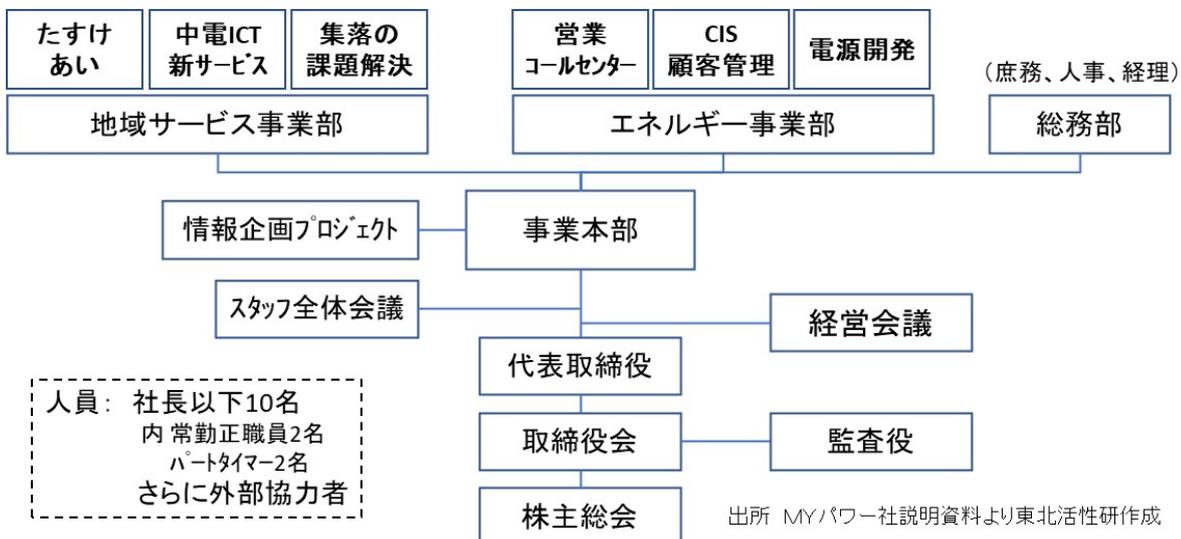
出所 「たすけあいプロジェクト」パンフレットより東北活性研作成

### 6.7 運営体制

総人員は社長を含め 10 名、内、常勤正職員 2 名、パートタイマー 2 名である (図表 6.10)。社長ほか役員は別の職業を持つが、各部署の正担

当も務める。職員は複数の正担当かつ複数の副担当を務めるのが普通である。彼らはティール組織 (上下関係がなく目的の共有により各人が自律的に仕事をする) を目指すとしている。

図表 6.10 運営体制 (組織図・人員)



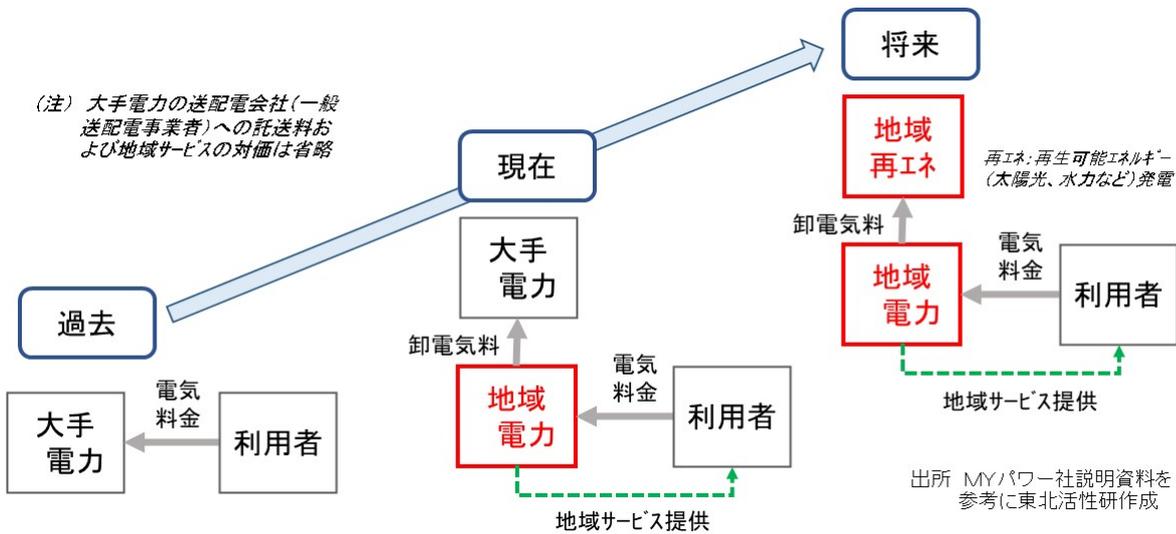
出所 MYパワー社説明資料より東北活性研作成

## 6.7 電気事業の今後

図表 6.11 はMYパワーの対象エリアにおける電気事業の構造変化である。図中の地域電力はMYパワー、大手電力は中部電力である。現在は大手電力から電力を調達しているが、将来は地域再エネによる調達比率を増やしていく。

概論で述べたように、地域再エネを開発して初めて本来的な価値創造と言える。

図表 6.11 電気事業の構造の過去、現在、将来



## 6.8 MYパワーのまとめ

本事例の特徴を列挙してまとめとする。

- ・全体コンセプトがすばらしい。地域資源を活用し、外部資源を積極的に取り入れながら地域自治を目指している。
- ・地域のエネルギー資源に着目し、まず、低リスクで収益の上がる小売電気事業から始め、次に大きな価値創造である再エネ開発に着手している。
- ・経営の安定のために行政（豊田市）と小売りでは競合である旧一般電気事業者（中部電力）と協定を結んでいる。特に中部電力とはWIN-WIN の関係と解釈できる。
- ・地域課題への対処では、既存の民間サービスを採用するなど無理のない形で進めている。